

中間とりまとめの概要

参考



3. 資源・エネルギーとしての
河川の利活用

1. 安全を持続的に確保するための管理

2. 危機対応力の向上

(1) 資源・エネルギーとしての河川の利活用促進と担い手の拡大

- ① エネルギーとしての流水の活用促進
- ② 担い手としての民間企業の役割の拡大
- ③ 市民団体等の管理における位置付けの明確化



(2) 地域資源としての河川環境の管理

- ① 具体的目標を持った河川環境の管理
- ② 河川環境を再生させる維持管理・更新の展開



4. 流域の視点が 必要な新たな 対応

治水施設の能力を超える洪水の頻発に加え、地球温暖化による気候変化の影響も懸念される状況下での河川の管理と流域全体の防災力のあり方や流域で生じる様々な課題に河川の管理が果たす役割等、近年の自然条件の変化や新たな社会的要請に対応し、河川の管理として検討すべき新たな対応については、さらに議論

(1) 河川の特質に応じた管理水準の持続的な確保

- ① 管理水準の確保に関する河川制度の整備
- ② 河川の規模や施設の重要度等に応じた管理水準の確保



(2) 管理技術を継承する人づくり、仕組みづくり

- ① データベースの構築
- ② 管理の技術継承、人材育成
- ③ 地域の安全を支えてきた体制の維持・充実
- ④ 都道府県等の支援体制の整備



(3) 不法行為への適確な対応

(4) 河道システムにおける施設管理

- ① 河道や施設の安全性を統合的に評価する技術の研究開発と実用化
- ② 許可工作物の確実な維持管理



(5) 技術開発の強化と積極活用

- ① 河道・堤防の効率的な点検・診断技術の開発と実用化
- ② コンクリート構造物等の点検・診断技術の実用化
- ③ 長寿命化に資する技術開発の推進
- ④ 新技術等を積極活用する仕組みづくり



(6) 戦略的なマネジメント

- ① 管理の現況評価と公表
- ② 河川構造物の長寿命化対策等の推進
- ③ 中長期のマネジメントの導入

【建設後40年以上経過する施設の割合】



(1) 出水時の確実な施設機能の確保



(2) 地域の防災力との強固な連携

- ① 地域で水災を防ぐ中心となる水防との連携の再構築
- ② 防災力として地域住民、民間企業等の役割の拡大



7/14 14:30時点 矢部川右岸7x300(堤防決壊状況)



平成24年九州北部豪雨(熊本県・矢部川)



平成23年新潟・福島豪雨(新潟県・晒川)



平成23年台風15号(愛知県・庄内川)



関東エコジカル・ネットワーク 形成